

# 令和7年度 第1学年 授業改善推進プラン

台東区立田原小学校

## 1 児童の状況及び実態を踏まえた課題

国語科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話しの内容を正しく聞くこと。</li> <li>・平仮名を正しく読んだり、書いたりすること。</li> <li>・文章を正しく読んだり、書いたりすること。</li> <li>・進んで読書をする事。</li> </ul>
算数科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文の内容を正しく捉えて答えること。</li> <li>・文章題を読み取り、正しく立式すること。</li> <li>・計算技能の定着にばらつきがあること。</li> <li>・量や形の分野に苦手意識があること。</li> </ul>

## 2 各教科の具体的な授業改善

	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
国語科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話の内容を理解して聞く力</li> <li>・平仮名を正しく読み書きする力</li> <li>・文章の内容を理解する力</li> <li>・進んで読書をしようとする力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞き落とさないようにするために、話し手を見て聞く姿勢の意識付けを行う。</li> <li>・大事な言葉を「キーワード」として意識して捉え、聞き取ったことをワークシートに書くなどの活動によって確かめる学習活動をする。</li> <li>・音読の練習に1人1台端末を活用し、音読したことを自ら聞く活動を通して正しく読むことの意識付けを図る。文字の正しい形を覚え、日常生活で平仮名を正しく書けるよう指導する。助詞（は、を、へ等）、促音（っ）、拗音（きゃ、きゅ、きょ等）、長音を正しく表記できるようにするために、書いた後に読んで確認する「見直し」を習慣化する。</li> <li>・文章のおおまかな内容を理解するために、音読を繰り返し、大切な言葉を見つけて文章構成を考える。</li> <li>・物語文や説明文において、主語、述語を日常的に意識して捉えるために、物語文の読解等の授業において、登場人物の「誰が、何をした」という発問を意識的に行う指導をする。</li> <li>・日々の学習や学級活動に関連する本を週に2冊程度、読み聞かせすることで、読書に関心をもてるようにする。</li> <li>・学校図書館司書と協力し、国語や生活科と関連がある本を集団貸し出しを行い、いつでも教室で手に取って読める環境をつくる。</li> </ul>

算 数 科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の内容を正しく捉え、答える力</li>   <li>・立式する力（足し算か引き算かの演算決定する力）</li>   <li>・早く正確に計算する力</li>   <li>・長さや広さ、かさの見当をつけ、測定の意味を理解する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文を音読し、分かっていることに青丸を付け、聞かれていることに赤線を引くなど視覚的に題意を読み取り、何を答えればよいかをはっきりしてから立式することを習慣化する。</li>   <li>・問題の場面を提示し、問題文の内容を具体的に理解してから言葉と式のつながりを意識させる。</li> <li>・問題文のキーワード（合わせていくつ、残りはいくつ、違いはいくつ等）を読み取り、ブロックや半具体物を活用したり、小集団での話し合い活動を行ったりして数の合成・分解をよく思考した後に立式し、式で表すことよき気づくような指導を行う。</li>   <li>・授業の始めに短時間で集中できる5分間の計算タイムを作り、繰り返し計算練習する。</li> <li>・小テストや計算カード、プリント演習、タブレット学習等、児童が楽しんで取り組めるツールを工夫し、継続した取組によって学力の定着を図る。</li>   <li>・長さ、広さ、かさ等の学習の基礎となる量感を育むために、具体物を用いて体感する活動を行い、形の違いに注目したり大きさ比べをしたりすることにより、日常生活の中から理解できる学習活動を行う。</li> </ul>
-------------	---	---